

第3回 大阪蘇生 アカデミー

2015年11月28日(土)
11時～16時30分(開場10時30分)

大阪市消防局 7F講堂
(住所:大阪市西区九条南1-12-54)

参加費:無料

(飲食スペースはございます。昼食は各自ご持参ください。)

定員:200名

申込方法

<http://qq1q.biz/nK5Y>または、
NPO大阪ライフサポート協会
<http://osakalifesupport.jp/>より
お申込み下さい。

【お願い】

大阪府下の消防機関の方は、必ず所属を通してお申し込み下さい。

心肺蘇生法ガイドライン 2015最前線 ～現場はどう進化すべきか～

特別講演 『直ぐ使える！新ガイドラインの 改正点とこれからの方向性』

帝京大学医学部救急医学講座
教授 坂本 哲也



主催:NPO法人 大阪ライフサポート協会
共催:大阪大学医学部附属病院 高度救急救命センター
京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター
後援(申請中):大阪府・大阪市

プログラム

心肺蘇生法ガイドライン2015最前線 ～現場はどう進化すべきか～

時間	内容
11:00-11:10	開会 大阪市消防局 救急部長 城戸 秀行
11:10-12:30	特別講演 直ぐ使える！新ガイドラインの改正点とこれからの方向性 座長:京都大学 健康科学センター 教授 石見 拓 大阪市消防局 救急部 救急課 救急施策担当副課長 林田 純人 演者:帝京大学医学部救急医学講座 教授 坂本 哲也
12:30-13:45	休憩
13:45-14:45	教育講演 大阪救急症例帖2015 座長:松原市消防本部消防署 救急係長 山地 真輔 演者:大阪府立急性期総合医療センター 救急診療科 木口 雄之
14:45-15:00	休憩
15:00-16:30	シンポジウム 救急ワークステーションの効果 座長:国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 梶野 健太郎 堺市消防局 警防部 救急救助課 主幹 政次 隆 コメンテーター: 厚生労働省地域医療計画課 病院前医療対策専門官 酒井 智彦 消防庁 救急企画室 課長補佐 上條 美昭 演題 ①「堺市救命救急センター」及び「堺市消防局救急ワークステーション」 立ち上げについて 演者:堺市立総合医療センター 救命救急センター長 中田 康城 ②札幌市救急ワークステーションにおける課題と展望 演者:札幌市消防局 警防部救急課救急指導係 消防司令補 砂原 一仁 ③医師同乗指導による救急隊員教育 演者:北九州市立八幡病院 救急科 部長/災害医療研修センター 副センター長 田口 健蔵 ④船橋市消防局・ドクターカーシステムについて 演者:船橋市消防局救急課 指導係 副主査 消防司令補 吉田 朗
16:35	閉会 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 教授 嶋津 岳士

第三回 大阪蘇生アカデミー開催概要

副題：心肺蘇生法ガイドライン 2015 最前線～現場はどう進化すべきか～

日時：平成 27 年 11 月 28 日 11:00-16:30

場所：大阪市消防局

趣旨：『心肺蘇生法ガイドライン 2015 最前線～現場はどう進化すべきか～』をテーマに、現場で活躍する救急隊員に有益となる最新の心肺蘇生ガイドラインに関する特別講演を用意するとともに、第一線で活躍している救急医から普段の救急業務における救急隊員にとってのピットフォールに関するご講演をいただいた。加えて、『救急ワークステーションの効果』をテーマにシンポジウムも開催した。病院前救急医療の充実に尽力されている臨床医の先生方に加え、指導的立場でご活躍なさっている救急救命士の方々もお招きし、各地域で試みられている最新の取り組みについてご講演いただいた。

成果：医師、看護師、救急救命士、消防士と様々な職種から延べ 244 人と多数の参加者を得られた。病院外心停止傷病者への心肺蘇生法に関する最新の知見や各地域で導入されている救急ワークステーションに関する画期的な取り組みを様々な医療従事者に広く伝える事ができた。さらに、救急隊員が知っておくべき救急現場のピットフォールについても効果的に伝えることができた。アンケートからも、参加者の多くが参加に満足しており、次回の開催を期待している事が窺えた。

参加者数：延べ 244 人

<共催>大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

京都大学 環境安全保健機構 附属健康科学センター

<後援>大阪府、大阪市

<協賛>旭化成ゾールメディカル株式会社、株式会社フジタ医科器械、株式会社 CU、フィジオコントロールジャパン株式会社、フクダ電子株式会社、株式会社 JMS、日本光電工業株式会社、レールダルメディカルジャパン株式会社、浜松ホトニクス、株式会社アレクソン、オムロンヘルスケア株式会社、エム・シー・メディカル株式会社

